

各地の活動から

～町内の単位クラブをシリーズで紹介していきます～

「筑紫永楽会」

「南大社ハッピー」

をご紹介します。

筑紫永楽会

■東員町内で最も小さいクラブ

筑紫永楽会は、筑紫自治会内に拠点を置くクラブで、60歳以上の筑紫在住者であれば、誰でも加入できます。筑紫は、自治会自体が小さいので、同様に永楽会も町内では最も会員数が少ないクラブですが、おかげでほとんどの会員同士が顔見知りなので、仲間意識が強く、いつでもワイワイ盛り上がっています。



■会員相互の助け合い「友愛訪問」

永楽会では、年に数回、独居・閉じこもりがち・足腰が弱いなどといった方々の自宅を訪問し、ふれあいを図っています。少子高齢化は確実に進んでいて、自治会の行事であっても参加人員の約半数が永楽会の会員で占める時もしばしばありますので、今後は自治会とも密接に連携をとって、地域内の見守り・助けあい活動に取り組んでいきたいと思っています。



■地域にとって欠かせない存在

会員相互の助け合い活動(=友愛訪問)と並んで、力を入れて取り組んでいるのが、毎月の清掃活動です。自治会内の花壇や施設の草取りをはじめ、神社や集落センターの大掃除など、自治会員が広く利用する場所を、誰もが気持ち良く利用できるよう永楽会として出来ることを協力しています。これからも、会員ひとりひとりが健康で安心して暮らせる地域にしてゆくよう頑張っていくつもりです。



クラブデータ

■会員数/73名(男34名 女39名)
■会長/種村 秀光

南大社ハッピー

■「老人クラブ」から「ハッピー」へ

私たち南大社老人クラブでは、高齢者の健康と生きがいのため、様々な活動を行っています。3年前からクラブ名を「南大社ハッピー(愛称)」と定め、以降一層交流の場を広げて活動しています。ハッピーでは、多くの皆さんの参加を心からお待ちしております。



■児童生徒の見守りとふれあい

毎日、下校時の通学路で子どもたちの見守り活動を行っています。子どもたちからの「ただいま」「ありがとう」という元気な挨拶から、私たちは元気をもらっています。さらに、毎年1回小学校で餅つき大会を三世代で行い、つくたての餅を子どもたちと一緒に食べて食べながら語り、最後に「鼓笛隊」の演奏を聞き、楽しい1日を過ごしています。



■地域での奉仕活動

ハッピーでは年間を通じ、南大社自治会内にある墓地公園・養父川公園・流鍋馬公園の管理、樹木の剪定、除草、清掃を行っています。また墓地公園・山神川水辺の花の植え替え、施肥、水やりなど花の管理を行っています。これらの活動は地域を豊かにする活動として、会員一丸となって取り組んでいます。

■教養、娯楽活動

会員を対象に、一泊旅行、日帰り旅行、神宮初詣、いきいき活動(講演会、演芸会、グラウンドゴルフなど各種スポーツ、食事会、ビンゴゲーム)などを行っています。誰もが毎日「ハッピー」であることを願いつつ、これからも一生懸命活動に取り組んでいきたいと思っています。

クラブデータ

■会員数/184名(男82名 女102名)
■会長/佐藤 美義

東員町老人クラブ連合会だより

VOL. 1

通信

もくじ

広報誌発刊に寄せて……………P1
老人クラブとは……………P2
事業トピックス……………P3
各地の活動から……………P4

発行日/平成22年10月1日

【発行】東員町老人クラブ連合会
【編集責任者】小川嘉和
【事務局】東員町ふれあいセンター内
東員町山田2013 TEL.0594-76-1560



シニア福祉大会



シニア芸能大会



私の暮らし5年後10年後講座



健康ウォーキング



広報誌発刊に寄せて

東員町老人クラブ連合会 会長 小川 嘉和



この度、東員町老人クラブ連合会の第1回広報誌を発刊しました。長年、広報誌の必要性は認識しつつも、財政難の折柄予算措置に苦慮し実現には至りませんでした。関係各位のご理解ご協力を得、今回こうして無事創刊できましたことを、まずもって心より感謝申し上げます。

現在の日本は、少子高齢化が進む中、高齢者福祉の在り方、医療・介護・年金問題など喫緊の課題が次から次へと発生し、私共を取り巻く環境が急激に大きく変化しています。

こうしたなか、全国老人クラブ連合会では、22年度を初年度とする「老人クラブ活性化3カ年計画」を策定し、健康活動・若手育成・活動への体験参加で、加入促進にむけた取組を行うよう、都道府県・市町村老連に呼び掛けています。

「今の高齢者の人達はみんな若い。元気でパワーを持っている。そのパワー(エネルギー)・技術・経験を地域の活性化に少しでも役立ててほしい」という声こそが、老人クラブに求められている期待と責任であると私は思っています。

受け身の人生ではなく、誰もが「自分のできることは自分でやる」といった自立の精神を大切に、地域を豊かにするボランティア活動を実践することで、自らの健康や豊かな生きがいを実感するクラブ活動の実践にむけて、私自身80を越えた老体に鞭打って今後も頑張っていきたいと思います。どうぞ60歳以上の町民の皆様におかれましても、クラブへご加入いただき、そして様々な活動へ積極的なご参画いただきますようお願い申し上げます。

編集後記

創刊号となる今回の編集作業は、初めての試みなので携わった者全員が試行錯誤の連続でしたが、無事発行することができました。今後は、さらに充実した紙面を提供していきたいと思っています。皆様の温かいご支援ご協力をよろしくお願いします。